

結露対策は発生源のカットから！！

結露対策は、室内の結露（水分）の発生源への対策も効果的です。水分の出所を押さえれば、結露はかなり少なくなります。

- (1) 台所で調理をする時は換気をする。
- (2) ストープの上で、煮炊きをしたりしない。
- (3) 浴室を24時間換気する。（浴室のトビラは閉めておく）
お風呂は入浴後だけでなく、常時（24時間）換気扇を回しておくのが理想です。換気扇の電気量は微少なので、換気扇を1ヶ月付けっぱなしにしてもひと月の電気代は80～130円ぐらいです。

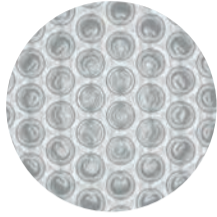
※部屋を締め切ると湿気がたまります。こまめな換気がオススメです。室内の通気口は塞がないようにしましょう。また、壁と家具の間に10cm程度の間隙をあけるのもポイントです。



冬の備え特集編

寒さの三要因をエアークャップとテープで克服！！

人間が寒さを感じる要因は空気対流・接触（物質伝導）・冷放射熱の3つ。それぞれの特徴を押さえ対策しましょう。



「プチプチ」とも呼ばれる梱包材。ホームセンターなら長尺のものが手に入ります。



「養生テープ」と呼ばれるものであれば、粘着力が弱くて痕が残りません。ホームセンターで手に入ります。

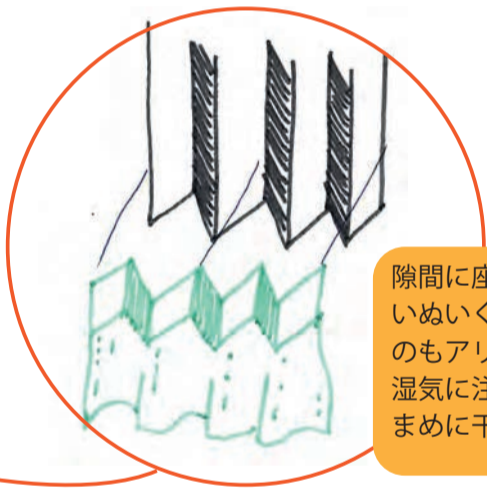
エアークャップとテープで出来る簡単な仮設住宅の冬の備えをご紹介します。いずれも昨年の冬に仮設住宅でお教え頂いたアイデアです。是非ご活用下さい。
(ver. 2.0)

要因1 空気対流

暑さ寒さは室温で評価しがちですが、どれだけ暖かくても冷たいすきま風が体に当たれば寒く感じます。自分がよく居る場所で、すきま風を感じるところに対策しましょう。

【対策1】

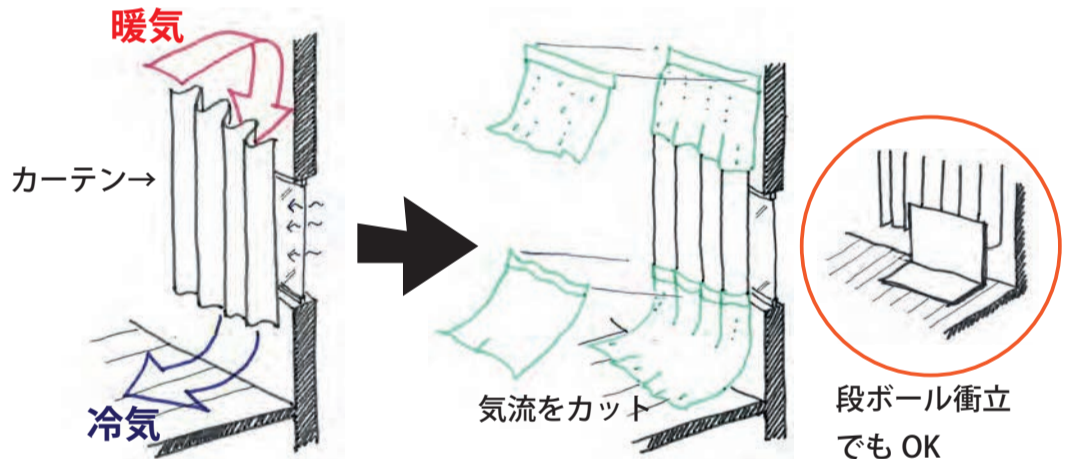
アコーデオンドア（間仕切り）の下部を塞いで冷気をカット。



隙間に座布団や細長いぬいぐるみを置くのもアリ。（ただし、湿気に注意して、こまめに干しましょう）

【対策2】

カーテンの上下に隙間があると、天井付近の暖かい空気が、カーテンと窓の間で空気が冷却され、カーテンの下部から冷気が流れ出します（コールドドラフト現象）。これにはカーテンの上部と下部を塞いで、気流をカットすることが効果的です。



段ボール衝立でもOK

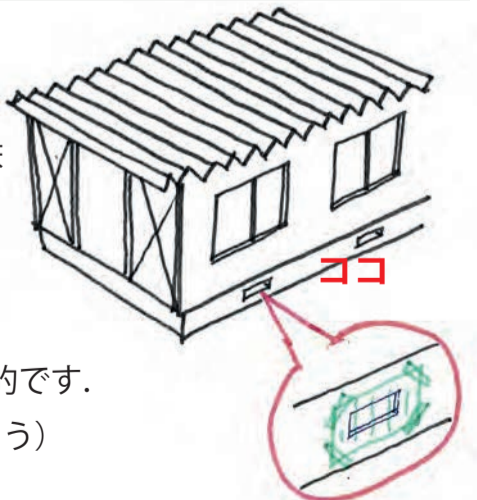
ガラス面にはどうしても結露が発生しがちです。カビなどが発生しないようにこまめに拭き取りましょう。

要因2 接触（熱伝導）

直接接触するところが冷えていたり、どんどん熱が奪われる部材だと寒く感じます。具体的には床面の冷え対策です。カーペットの下にエアークャップや発泡断熱材を敷いていたご家庭もありました。（カーペット下の断熱はこまめな乾燥がオススメです。）

【対策】

床下に吹き込んだ冷気が床下からどんどん冷やしていく（床暖房の逆ですね）という現象も見逃せません。これには、仮設住宅の床下通風口を冬場だけ防ぐというやり方も効果的です。（夏場は元通り通風させましょう）



要因3 冷放射

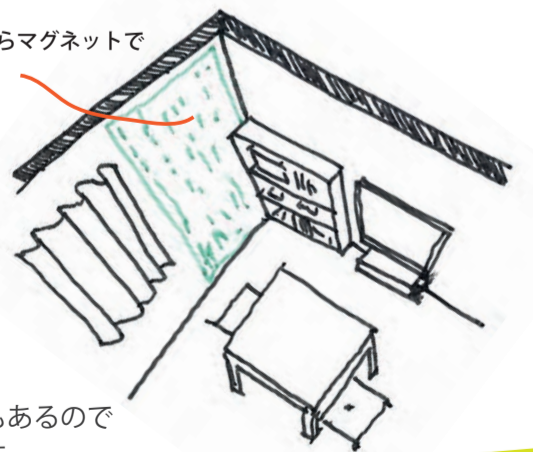
室内に冷たい面が露出していると、そこから冷気を感じます。ハロゲンヒーターのように放射熱で離れていても暖かい暖房がありますが、その逆の現象（冷放射）が起きています。

【対策】

仮設住宅の壁面が金属製でひんやりしている場合は、壁をエアークャップや布でカバーすると効果的です。

※結露が出る可能性もあるので慎重な対策が必要です。

金属製の壁ならマグネットで貼り付け可能



仮設住宅のタイプは様々です。規格住宅型や木造住宅など、住宅のつくりによって対策は異なります。上に挙げたのは一般的な対策ですが、どれが効果的であるかは住まいのタイプによって異なりますし、これ以外にも効果的な方法もあり得ます。同じ住宅にお住まいのご近所同士で、上手いやり方を情報交換することも解決の近道です。